

住民参加で進める道づくり

両備バス株式会社 代表取締役社長 小嶋 光信さん



こじま みつのぶ 1945年生まれ。68年慶応義塾大学経済学部卒。(株)三井銀行入行。73年両備運輸(株)常務取締役就任。95年より中国旅客船協会副会長も務める。99年より現職。

供給サイドの理論で行われていた道路行政が、使う側の立場で行われ始めたという点で、今回の取り組みは画期的なことだと思います。指標の導入によって住民に分かりやすくなったことも評価できます。私自身、委員としてローカル・ルールの導入などさまざまな提案をしてきましたが、こうした意見を柔軟に取り入れて頂き、実際の政策に大きく関わることが出来たように思います。今後は、道路がより身近になるように、地域が主体になるように、

道路行政に住民の視点 維持管理も一体化を

でしたが、交差点の改良などによって、渋滞はかなり解消されてきています。地方における渋滞は、慢性化している国道2号などを除けば、特定の曜日と時間に集中しているため、

交通需要マネジメント(TDM)によって時間帯別に流入量の規制を行えば随分解消されるはずです。そのためには、通勤・通学には公共交通を優先的に使う、

また通過交通の問題もあります。料金の弾力的な運用やETCの義務化によって高速道路に通過車両を流していくことが急がれます。当社ではパークアンドライド用の駐車場を整備していますが、満車に近く、大変好調です。こうした制度は積極的に導入していく必要があります。そのためには公共交通機関の定時性の確保が不可欠です。また、今は縦割りとなっている関係省庁・自治体が連携し、住民も巻き込み一体的に管理をするような仕組みが必要です。

●地域住民による道路総点検と整備(岡山市)



点検時

岡山国体の主会場となる県総合グラウンドとJR岡山駅を結ぶ道路の総点検を昨年、実施しました。約100名の住民が協力し、歩道の段差や路上の障害物などを確認。その後、参加者の意見をもとに、歩道の段差をなくすなど、歩行者優先の道路整備を行いました。



整備後
(岡山大学入口交差点)